

暮らしは税で守られている

宇都宮市立宮の原中学校3年 齊藤 和奏

テレビから埼玉のごみ処理施設が火事になり、ごみの収集が停止してしまったというニュースが流れてきた。捨てられないごみが家庭内やお店にたまつており、街の人たちは困っていた。また、勝手に街中に放棄されたごみからは悪臭が漂っており問題も起きていた。

私が住む地域でも、三年前、ごみ処理場で火災が発生したことを思い出した。市のごみ焼却能力の約七割が失われた。火災の原因はスプレー缶やリチウム電池などの危険ごみの混入だとされている。もし、皆で決まりを守ってごみを分別していれば、火災は起きなかつたかもしれない。復興には約五十四億五千万円の莫大な費用と、半年の期間がかかった。再建や処理のためのお金の多くは、私たち市民が納めている税金から出ている。せっかく集められた大事な税金が、こんな形で消えていくのは、もったいないと思った。

当時ごみの回収が停止することはなかつたが、ごみ処理が完全に機能しなくなっていたら、家や街がごみであふれ、大変なことになつていたと思う。毎週決まった曜日にゴミが回収され清潔な暮らしを保つことができるのは当たり前のことではないのだと思った。周りを見渡してみると普段何気なく生活している中には、税によって成り立っていることがたくさんある。川沿いの私の家の前は毎年夏になると、人の背丈以上もある雑草に埋め尽くされるが、必ず除草され、きれいで清々しい景観がよみがえる。これも税がもたらした恩恵だと改めて気づいた。私たちは常に、税の恩恵を受けていると再確認させられる。

三年前の当時、市のごみを減らそうという働きかけで、私は母とごみを土に返すコンポストという取り組みを行つた。毎日生ごみを集めていると、思った以上にたくさんの量があつたことを覚えている。少し手間はかかつたが、堆肥を使い、花を育てて楽しんだ。小学生だった私は、あまり深く考えていなかつたが、今思うと、環境にやさしいだけでなく無駄な税金の支出を減らすことにもつながる大切な活動だったと実感した。小さな努力の積み重ねでも、一人ひとりの行動のあり方で、大きな実りを成すことができるのではないか。

今この瞬間も税がだれかの支えとなつてゐる。私たちが支払った税が巡り巡つて自分や大切な人の力となる。税は、決して自分と関係のない「遠いお金」ではなく、私たちの暮らしを守るために、皆で出し合つてゐる大切な資源だ。この資源を無駄に使われることなく、有意義なものにしていかなければならぬと思う。そのためには、税についてしっかりと学び、正しい知識をもつことが、学生である私たちにとって大切なことではないか。そして税による恩恵に、感謝の気持ちをもち、自分にできることを意識して生活することがよりよい社会へとつづく、一歩となるのではないか。将来大人になる私たちが、安心して暮らせる未来への架け橋になれるように。